Activity Report

桝井　睦

活動日：２０２２年5月11日（水）	活動日数：１１日目
小学校：Preyboeng　５年生	人数：１１人

１．内容

１３：００～１３：４５　① 「There is ／ There are」の復習
（シーケンシャル・ランダム）
② 「There is ／ There are」の疑問文に答える復習
（シーケンシャル・ランダム）
③ 「How many」と「There is / There are」の組み合わせで数をフルセンテンスで答える練習

１３：４５～１４：００　休憩

１４：００～１４：４５　④ 「There is / There are」ワークシート
⑤ カラーの歌（ラップ調で段々早くなる）で色名の復習と、「I don't like」文の練習

２．目的

・① 前回学習した内容の理解度を知る事、及びフルセンテンスでの会話の学習
・② 前回学習した内容の理解度を知る事、及びフルセンテンスでの会話の学習
・③ 前回学習した内容の理解度を知る事、及びフルセンテンスでの会話の学習
・④ 「There is / There are」と単数・複数の関係がわかっているか、および「on」「in」の意味が理解できているかの確認
・⑤ 前回と同様「I don't like」の使い方を覚える.

３．使用教材

・① 「There is ／ There are」カード、「on ／ in」カード
・② 「There is ／ There are」カード、「on ／ in」カード
・③　動物カード
・④ 「There is / There are」ワークシート
・⑤ 色カード、スピーカー

４．実施

① 「There is / There are」のフルセンテンスを全員で声に出して読む練習のあと一人一人個別に声を出して読む練習。
→また同じ練習かいう思った子（良くできる子）もいましたが、殆どの学習者が声に出して読んでくれました。

② 桝井が「there is / there are」の疑問文をつくり、学習者が答える練習をしました。
→数名は正しく答えてくれましたが、まだ単数の場合は There is、複数の場合は There are、否定文の場合は、isn't や aren't を使うことが理解できていない学習者がいました。 一応訂正しましたが、今の授業ではそれを深く追求するのではなく、英語を楽しく勉強する事が主目的としています。

Activity Report

桝井　睦

③「How many ～ are there」の使い方の解説と練習。桝井が動物カードを示しながら「How many cats are there」の様に動物名を入れて How many の使い方を例示して、みんなで声をだして読みます。

→今は、オウム返しに言えるだけで、学習者自ら作文できなくても OK としています。 繰り返し声に出すことを主目的としています。

④ 学習者にはちょっとハードルの高いワークシートだと理解しつつ、どこまで理解しているかを知るために、「There is / There are」「is / isn't / are / aren't」を記述してもらうワークシートを実施。

→予想していたより多くの学習者が正解していましたが、どうやら一番最初にできた学習者から教えてもらっていたようです。 その中でも自力で正解していた学習者もいました。 まぁ今の時点では、両方とも OK としました。

⑤ 前日の「I like」と色の組み合わせではなく、「I don't like」の練習をしました。その後、ラップ調の音楽に合わせて、みんなで声に出して歌いました。

→前回と同様、ラップ調の音楽が次第に早くなるのが面白いようで、今日が３回目なので、踊り出す子もいて楽しんでもらっているようでした。
が、「like」という抽象概念は、ちょっと理解が難しいようでした。

４．学習者の反応（１～５）

①　：３　→　３　→　２
②　：２　→　２　→　２
③　：３　→　３　→　３
④　：２　→　３
⑤　：４　→　４　→　５

６．問題点

① 前回、単調な復習だったので、今回はちょっとひねりを入れて、物の名前のレパートリーを少し増やしてみましたが、増やしたレパートリーの物の名前が別のレッスンで使用したものだったので、ちょっと戸惑った様子でした。

→学習者にとって、前日覚えたものと違うものが出てくると戸惑いを見せていた事から、基本は基本で変更せず、応用は別の機会に回すのが良いのではないかと思います。

② 学習者によって「There is / There are」の意味、「yes / no」と「is / isn't / are / aren't」の意味が理解できている学習者とできていない学習者で返答に大きな差が顕著に表れてしまいました。

→理解度に差がある場合、理解度の低い学習者の底上げと、理解度の高い学習者の満足度を満たすために、玉石混合の教材を作成する必要がありそうです。

③ ①同様、応用という点では、まだまだ難しい部分が多く、室内イラストを見せて「How many ～ are there」と質問する教材が使用できませんでした。

Activity Report

桝井　睦

→覚えた事の応用は別の機会に実施するようにして、単調でも基礎をしっかり覚えてもらうのが良いと思われます。

④ 自力で正解できた学習者がいたとはいえ、少々ハードルが高かったので、穴埋め式の記述ワークシートは、現状の学習者には難しすぎたように思われます。
→もっと先、応用問題が解けるようになってから実施するのが良いと思われます。

⑤ 音楽ソースに重点を置いたため、まだ抽象概念「like」を理解できていないのにその音楽ソースを使ったので、単なる音楽と読み「I don't like ～」になってしまいました。
→音楽ソースの選定に重点を置くのではなく、グレード４の教科書の内容に重点を置く必要があると思われます。 その際、適当な音楽ソースが見つからない場合、どうすべきか検討の余地があると思われます。

その他： 今日は松田先生がおられたので、昨日授業妨害した学習者が入室しなかったので、昨日のような問題と同様の問題が発生しませんでした。しかしながら、彼らを受け入れて学習させる技量が私自身に備わってない事を実感、松田先生にご助力して頂かなくてはならない状況になってしまったすべて私の不徳の致すところと心得るべき事象であります。

５．改善策

① 昨日「単調でも堅実に前回の復習をやるべきか、前回の授業の内容に少しでもひねりを入れて刺激的なものにするか、後者を試して学習者の反応をみて、その後どちらを続けるかを検討します。」と書きましたが、後者を試した結果、学習者に戸惑いが生じた為、今後は前者の通り、単調でも確実に前回の復習を実施するようにします。

② 教材を工夫して、理解度の低い学習者と高い学習者の両方に興味が持てる教材の検討、開発を実施します。

③ ②同様、教材の工夫をします。

④ 考えて記述してもらう方法はダメだったので、最初にやっていた、サンプル単語を移す方法に変えます。

⑤ 音楽ソースを見つけてから教材を工夫するのではなく、教材を作り、その内容に近いソースを探すようにします。